

「就職活動」の概説

COLUMN
県内大学発
経世済民
546

埼玉学園大学

■3月といえば…

図らずも、インターンシップ（就業体験）に向けた授業や、企業人をお招きして業界研究や会社研究を行う授業を担当している。

3月といえば就職活動解禁である。企業が採用情報を公開し、広報活動を開始する。多くの企業は採用情報を自社ホームページ上で公開し、企業と学生の間を仲介する就職活動サイトにも掲載する。また、企業説明会を開催して、多くの学生との接点を持つ。

その後、エントリーシートの提出、適性試験や面接といった6

月からの選考活動を経て、首尾よくいけば10月に内定を獲得できる。

■今どきの選考活動

エントリーシートを「存じだろつか。履歴書に似た選考資料で、志望動機に加えて、自己PR、大学在学中に力を入れたこと、入社後に関わりたい仕事といった企業が示した設問に記入しなければならぬのだ。また、適性試験や複数回の面接に加えて、何らかのテーマに

大塚 浩記 経済経営学部教授



ついて学生同士が討論するグループワークも多くの企業が採り入れている。さらに、WEBテストやWEB面接といった手法も登場している。

■学生の対応

3年生3月から4年生10月という期間には余裕がありそうな気がするが、実は全くない。理由は二つ。一つはスケジュール管理、もう一つは膨大な情報量である。

複数社の説明会予約、提出物作成、説明会や面接への出席などを並行して行つたため、重複を避けるスケジュールを組まなけ

ればならない。その上で、ホームページ上の多くの情報を理解して選考に臨まなければならぬのだ。

それゆえ、事前準備が大切である。いつから始めるのか。上記の活動に先立つて、3年生6月から企業がインターンシップの広報活動を始め、7月から翌年3月の解禁まで随時実施する。紙幅の関係から詳述できないが、多くの場合、応募者全員が体験できるわけではなく、抽選または選考である。インターンシップへの参加は、採用に直結させないことにはなっている

が、企業と接する絶好の機会である。3年生の春までには就職活動を意識したい。

■家庭での協力

2020年度は、オリンピック

ク・イヤーであることに加え、新型コロナウイルスも少なからず影響することが予想され、水面下では企業も学生も例年より早めの対応をしているように見受けられる。この点も含め、多くの学生はかなりの苦労する可能性が高い。

私見だが、家庭の影響は大きい。学生が一番身近で見ることができる労働者が保護者であり、兄弟であるからだ。学生が何かの判断を下す際には少なからず判断基準として影響している。ぜひ家庭でも働くことにかかわる経験を伝え、また迷いや悩みなどに耳を傾けていただきたい。

ただし、「今どきの若者は…」とは違つかもしれないが、産業構造や採用手法が変化する中で、会話では違和感を覚えることがあるかもしれない。可能な限り、保護者側が聞き役に徹し、悔いのない主体的な活動を促すような学生との関わり方をお願い致します。

おおつか・ひろのり 1967年生まれ。立命館大学経営学部卒。明治大学大学院経営学研究科博士後期課程単位取得退学。修士（経営学）。2014年4月から現職。キャリアセンター長。専門は財務会計。主な著書に『基本から学ぶ会計学』（共著・中央経済社）、『ニューステップアップ簿記』（共著・創成社）など。